

寒かった日々が過ぎ、やっと少しずつ暖かくなってきましたね。ご進級、ご進学おめでとうございます❀
新しい環境に変わったことで、より子どものことが気になったり、先回りして手助けしてしまうかもしれないですね。さて今回はペリコプターペアレントの中から「過干渉」についてお伝えいたします。

過干渉とは？

「過干渉」とは、必要以上に保護者が子どもに関与し、子ども自身が自分で考えたり、チャレンジしたりする機会を奪うことを指します。

過干渉をし続けると、子どもの自立心や自主性を妨げられ、保護者が意図せずとも、子どもの成長に悪影響を及ぼすことがあります。



過干渉と適切な干渉の線引きとは・・・？



「どこからが過干渉なの？」という疑問が出てくるかと思います。
残念ながら、明確にこことラインを引くのは難しいです。
なぜなら、子どもの性格や年齢などによって、適切なラインが違うからです。
例えば、1歳の子どもに服を着せてあげるのは適切ですが、
理由なく小学生に服を着せてあげるのは過干渉といえるでしょう。
あと少しでできそうなことは、手を出さずに見守り、
子どもの状態に目を配りながら、その子その子に合った対応を行うことが大切です。

どうして過干渉になってしまうのでしょうか。

根底にあるのは誰もが持つ「不安感」。現在は特にテレビのニュースやネットの情報、SNSなどから、育児に関する情報が溢れています。さまざまな情報により、「この年齢ではこれができなくてはいけない」「ちゃんとしなければ将来この子が困るのではないかなど、他の子と自分の子を比較したり、教科書どおりの成長度合いを意識しすぎたりするあまり、不安感を強めてしまうことがあります。子どもに「ちゃんと育ててほしい」という親心から、必要以上に干渉してしまうのです。いいところだけを切り取ったような、曖昧な情報に惑わされず、まずはお子さまの様子をじっくり見てあげることが大切です。

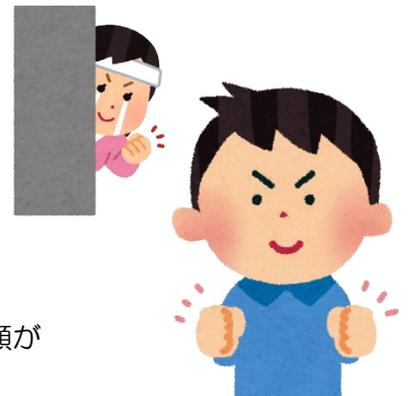
また、「子どもがモタモタしていると、つい待てずに助けてしまう……」という保護者の方もいるのではないのでしょうか？ そのお気持ち、とてもよくわかります。

お子さまがしていることを、手や口を出さずに見守るというのは、思った以上に大変で忍耐力が要ります。

しかし、お子さまのこのモタモタこそ、試行錯誤の表れで、まさに成長している道半ばなのです。

つい手助けしたくなるかもしれませんが、「自分の忍耐力が試されている」と心に刻み、出来るときに構いませんので、優しく見守ってあげてください。

何かが出来た時の「やった！ できた！」という、お子さまの嬉しそうな笑顔が見られる喜びを感じられるかもしれません。



今回は過干渉が与える子どもへの影響と大人ができる対応について、お伝えします。